# 会議録(概要)

会議の名称	令和7年度 第1回弥富市総合計画・総合戦略推進会議
開催日時	令和7年9月8日(月) 午後1時57分~3時23分
開催場所	弥富市役所本庁舎5階 協議会室
出席者及び欠席者	出席者:東嶋とも子(会長)、入江容子(職務代理)、伊藤惠造、柿内賢治、浮須守、 釜田公良、伊藤善啓、児玉日佐美、渡辺里江(順不同) 欠席者:伊藤肇章、柄谷友香、古市祐康(順不同) 事務局:市長、副市長、教育長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、建設部長、 教育部長、議会事務局長、総務部参事、収納課長、市民課長、市民協働課長、 観光課長、福祉課長、児童課長、土木課長、下水道課長、企画政策課長、企画 政策課職員3名
会議内容	<ul> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 委員紹介</li> <li>4 会長の選任、職務代理者の指名</li> <li>5 議題 <ul> <li>(1) デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証について</li> <li>(2) 企業版ふるさと納税寄附活用事業の実施報告について</li> <li>(3) その他</li> </ul> </li> <li>6 閉会</li> </ul>
会議資料	<ul> <li>・次第</li> <li>・弥富市総合計画・総合戦略推進会議委員名簿</li> <li>・資料1-1 デジタル田園都市国家構想交付金 事業一覧・効果検証シート(令和6年度分)</li> <li>・資料1-2 令和7年度デジタル田園都市国家構想交付金 採択事業一覧</li> <li>・資料2 令和6年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業(企業版ふるさと納税寄附活用事業)実施状況</li> <li>・弥富市総合計画・総合戦略推進会議設置要綱</li> </ul>

発言者	会議の概要(議題・発言内容等)
	1 開 会
事務局	<欠席委員 連絡、資料の確認>
	2 あいさつ
市長	<市長あいさつ>
	3 委員紹介
委員	<各委員あいさつ>
市職員	<市職員あいさつ>
	4 会長の選任、職務代理者の指名
	<会長に東嶋とも子委員を選任>
	<職務代理者に入江容子委員を指名>
	5 議題 <u>(5 (1)、(2)、(3)</u> については、会長により進行) (1) デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証について
事務局・担当課長	<資料1-1について、事務局及び担当課長より説明>
浮須委員	<質疑> 観光協会 YouTube のチャンネル登録者数の実績値が0人であるが、本当に登録者が 0人ということか。
観光課長	現在、観光協会 YouTube チャンネルは開設されていない。令和7年度開設に向け検討している。
釜田委員	ヤトミーティングはどのような成り立ちから構成されたのか。
企画政策課長	2020年9月、10月に開催した地方創生に関するオンラインワークショップに参加した市民を中心に、そこで提案された事業を市と市民で形にし、実現するために「地方創生事業プロジェクト会議(通称:YTM. Meeting(ヤトミーティング))」を立ち上げ

た。

### 釜田委員

ヤトミーティング事業の  $\alpha$  拠点や  $\beta$  拠点とは何か。

#### 企画政策課長

現在、弥富まちなか交流館に設置されている弥富市市民活動センター「やとみっけ ベース」が  $\alpha$  拠点にあたる。

役割としては、市民活動や市民活躍の場としての機能を備えつつ、相談窓口を設置して市民の相談事や困りごとを解決するため、地域資源の紹介や、ニーズ別の案内を行うことである。

また、ヤトミーティング主催のイベントなどを企画し、開催することで、地域資源 同士の繋がりや市民の利用促進を図っている。

β拠点とは、地域資源バンク制度に登録いただいている地域資源を指している。

## 入江委員

ヤトミーティング事業の KPI 「 $\alpha$  拠点が仲介して、市民の相談事が解決に繋がった 件数」と、やとみっけベース整備事業の KPI 「やとみっけベースが仲介して、市民の相談事が解決に繋がった件数」は同じ値を指しているのか。

#### 企画政策課長

目標値の設定方法に違いはあるが、実績値としてあがってくる数値としては同じものである。

#### 入江委員

やとみっけベースの事業は非常に重要な事業だと思う。  $\beta$  拠点と市民活動団体等の関係性、関連はあるのか。

その団体の自主性、自立性というのは非常に難しい問題であるが、何か支援等は行っているのか。特に財政的な支援は行っているのか。

#### 企画政策課長

質問の前半部分について、α拠点の運営管理を市民活動団体に業務委託し、市民自身で運営管理を担っている。

その $\alpha$ 拠点を核として、相談内容と解決できる地域資源のマッチングを市民活動団体と $\beta$ 拠点で連携を図りながら行っている。

## 市民協働課長

質問の後半部分について、市民活動団体等に対して財政的な支援として、「地域づくり補助金」がある。

団体は自立性の面でとても困っており、少額ではあるが財政的な支援として、その 補助メニューがある。

実例を挙げると、譲渡会の会場などで公共施設を活用し、地域ねこ・保護猫活動を している団体がやとみっけベースへの相談をきっかけに、財政支援につながった案件 がある。 入江委員

SMS を活用した通知配信サービス事業について、ショートメッセージを既読したという確認はできるのか。

収納課長

既読したという確認はできない。

入江委員

横断的な利用は可能なのか、また可能であるなら具体的にどのような利用方法なのか。

収納課長

収納課単独で確認できる電話番号には限りがあるため、各課で共有できるような体制を整える必要がある。

入江委員

保育所給食管理システム導入事業について、導入してアウトプットするのはいいが、 現場での誤配防止につながっているか。アレルギーチェックするだけではなく、保育 士の誤配防止などのアウトカムにつながる仕組みを構築することも必要ではないか。

児童課長

現時点では、誤配防止につながっているのか検証していない。

保育士からは、手書きであったアレルギーチェック表が一律の様式になったことで 見やすくなったとの声はある。

見やすくなったチェック表で誤配防止につながったかは、今後検証していく。

伊藤(善)委員

SMS を活用した通知配信サービス事業について、催告者は、催告書の発送件数 1,752 とショートメッセージを送信した 1,608 を足した 3,360 人という認識でよろしいか。

収納課長

従来、1,800 件を超える催告の発送が、ショートメッセージを送信したことで 1,752 件に減ったということである。

また、1,608 件分のショートメッセージを送信したと説明したが、1 通あたりの文字制限があり、70 文字を1 通としているため、実際には半分程度の800 件が送信されたことになる。

伊藤(善)委員

市民に周知とあるが、具体的にどのような周知をしているのか。

収納課長

昨年8月からショートメッセージを送信しているが、市広報誌には令和6年8月に 掲載している。

今年度は記憶が定かではないが、9月か10月に掲載している。また、市ホームページには常時掲載している。

伊藤(善)委員

住宅地図(LGWAN)システムによる個別避難計画運用事業について、業績評価指標の「住宅地図システムとリンクした避難行動要支援者数」の初年度について、一度にデ

ータを取り込めるかわからなかったため、目標値と実績値に大きな乖離があったとの 説明があったが、2,160件という数字は全て取り込むことができたということか。

福祉課長

避難行動要支援者数については、実際には新規登録や死亡等による削除など、毎月 変動があり、随時加除を行っている。

元々、Excel で管理していた名簿データを、初年度において全てシステムへ取り込むことができたため、「2,160件」はそのような数字という理解をしてもらえれば結構である。

伊藤(善)委員

自主防災組織等の地域支援者へ要配慮情報を提供するとあるが、個人情報保護への 対応はどのようにするのか。

福祉課長

要配慮情報については、既に数年前から自主防災組織等へ名簿を提供しており、毎年4月に開催している自主防災会全体会において、個人情報の取扱いについて説明している。

また、自主防災会の会長が代わる度に、新しい会長に個人情報の管理について誓約してもらっている。

以前から自主防災会より、名簿だけでなく地域のどこに居住しているか分からない という意見をもらったため、今回導入したシステムを活用し、視覚的に把握が可能と なるよう、要配慮者の居住地をプロットした地図を新たに配付したところである。

会長

令和6年度の6事業における外部有識者からの評価について、今出されたご意見等を踏まえつつ、最終的には事務局と整理・調整し、取りまとめるというような形でご一任いただいてよろしいか。

委員

(「異議なし」の声あり)

事務局

<資料1-2について、事務局及び担当課長より説明>

<質疑等なし>

(2) 企業版ふるさと納税寄付活用事業の実施報告について

事務局

<資料2について、事務局より説明>

<質疑等なし>

(3) その他
<質疑等なし>
6 閉 会